



記者発表資料

宮崎海岸の埋設護岸（サンドパック工法）施工箇所において アカウミガメの産卵が確認されました

環境、景観、利用面に配慮して、全国初の埋設護岸整備を行った宮崎海岸大炊田地区（場所：宮崎市佐土原町下田島地先）において、アカウミガメが産卵していたことが、6月14日に特定非営利活動法人宮崎野生動物研究会が実施した現地調査で確認されました。

宮崎河川国道事務所では、アカウミガメの上陸及び産卵状況を注視し、引き続き、環境・景観・利用に配慮した「宮崎海岸の侵食対策」を進め、海岸背後地の安全・安心の確保に努めてまいります。

【参考】

「宮崎海岸の侵食対策」とは？

3つの柱からなるプロジェクトです。これまでに失われた宮崎海岸（宮崎港北端～ツ瀬川河口間）の砂浜を回復・維持するために、①養浜等を実施し、②突堤を整備します。また、砂丘が海岸に面しているため急激な侵食の危険性がある区域（大炊田海岸の一部、住吉海岸の一部）においては、浜崖頂部高の低下を防ぐために、③埋設護岸を整備します。

「埋設護岸」とは？

- ・自然の堤防である砂丘により越波被害を防止し、背後地の安全・安心を確保するため、砂丘がくずれないように護岸をつくる必要があります。
- ・環境、景観、利用面に配慮して、砂で覆う（埋設する）ため「埋設護岸」と名付けました。丈夫な繊維でできた大きな袋に砂をつめたサンドパックを使います。
- ・埋設護岸としてサンドパックを使用するのは、全国で初めての取り組みです。

ホームページ：<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

発表記者クラブ

宮崎県政記者クラブ、宮崎市政記者クラブ

問い合わせ先

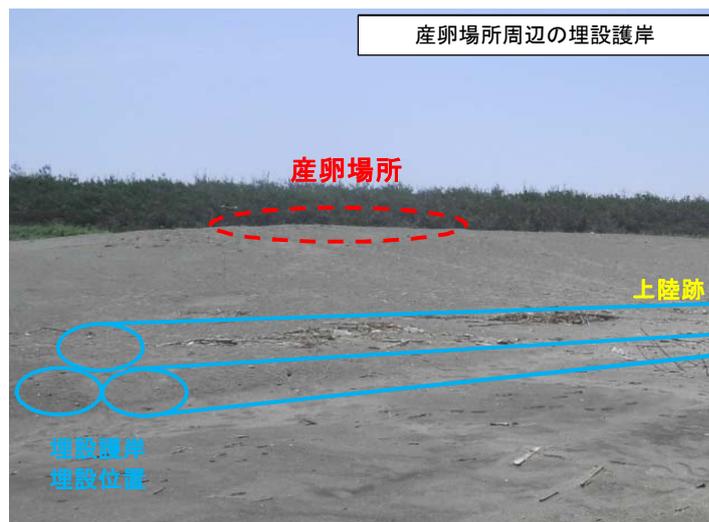
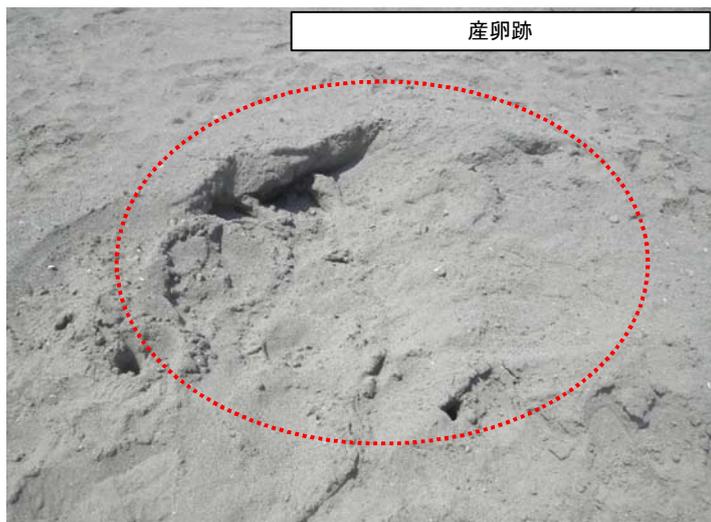
国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

TEL 0985-24-8221 (代表)

○河川副所長 飯田 茂幸

○海岸課長 岡村 雄一

【現地状況写真】埋設護岸(サンドパック工法)施工箇所におけるアカウミガメの産卵(平成28年6月14日撮影)



○産卵場所(イメージ図)

